

令和5年度全国学力・学習状況調査における春日井市全体の結果について

春日井市教育委員会

令和5年4月18日（火）に、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された全国学力・学習状況調査の春日井市の結果の概要についてお知らせします。

なお、この調査の結果は、児童生徒の学力の一部分であることをご承知おきください。また、この調査の詳細は、国立教育政策研究所のウェブサイト「全国学力・学習状況調査」により確認できます。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

1 小学校6年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・小学校6年生】

国 語	状況	正答率：全国平均よりやや低い 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○目的を意識して、中心となる語や文を見つけて 要約することができる。 △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。 △図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
	今後の指導のポイント	
	・ 5年生、6年生は、漢字による熟語などの語句の使用が増加する。そのため、同音異義語に注意するなど、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身につくようにすることが重要である。 ・ 自分の考えが伝わるように書くためには、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫することが大切である。図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などを記述する際に、図表やグラフを用いることで、自分の考えを深めたり、相手にとって理解しやすいものにしたりすることが大切である。	

【算数・小学校6年生】

算 数	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや少ない
	内容	○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができる。 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができる。 △正三角形の意味や性質について理解している。 △高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することができる。
	今後の指導のポイント	
	・図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、基本的な図形の概念や直線の位置関係について理解したり、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察したりすることが重要である。そのために、例えば、直線の平行や垂直の関係と図形を構成する要素などを関連付けることが大切である。また、逆に図形を構成する要素やそれらの位置関係から図形の構成の仕方について考察できるようにすることも大切である。	

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【小学校6年生】

【生活習慣】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きたり、寝たりしている。

【学校・家庭での生活の様子】

- 先生は自分のよいところを認めてくれていると思う。
- 先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。
- 学校に行くのは楽しいと思う。
- 友達関係に満足している。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。
- △平日・休日ともに家で1時間以上勉強していない。
- △あまり読書をしない。
- △あまり新聞を読まない。

【自尊意識】

- 自分には、よいところがあると思う。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

- 人が困っているときは、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないと思う。

【学習の様子】

- 週3回以上、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- 授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 国語や算数や英語の勉強は大切だと思う。
- 国語や算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・朝食を毎日食べている児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・家で自分で計画を立てて勉強している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・新聞を読んでいる児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・読書が好きな児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と回答している児童の方が教科の正答率が高くなっている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる」と回答している児童ほど、教科の正答率が高くなっている。

2 中学校3年生

(1) 教科の状況

状況を見るにあたって、よくできている内容【○】と努力を要する内容【△】の一部及び今後の指導のポイントを紹介します。

【国語・中学校3年生】

国 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層がやや多い
	内容	○目的や場面に応じて質問する内容を検討することができる。 ○事象や行為、心情を表す語句について理解している。 △文脈に即して漢字を正しく書くことができる。 △古典の原文と古典に解釈を加えて現代語で書いた作品とを読み比べる場面において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。
	今後の指導のポイント	
	・指導に当たっては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を得させ、文脈に即して漢字を書くように常に注意しながら学習させることが大切である。また、文章の中ばかりではなく、話すこと・聞くことの学習の中や、他教科の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識させるようにする。漢字を書く力を養うためには、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣を養うことも大切である。そのためには、必要に応じて辞書を引くことを習慣づけることが有効である。また、漢字を書く指導では、書写との関連を図ることが大切である。字体、点画、筆順等に注意し、楷書で正しく整った文字を書くようにすることなどに努めさせることが必要である。 ・「伝統的な言語文化」の指導に当たっては、小学校での学習を踏まえ、中学校においても引き続き親しむことを重視し、その表現を味わったり、自らの表現に生かしたりすることができるようにすることが大切である。生徒が古典に親しみをもてるようにするには、取り上げる指導事項に応じて、どのように古典の教材を活用して授業を行うのかを考えることが重要である。古典の指導は原文でなければ行えないというものではない。古文や漢文特有のリズムを味わったり文語のきまりを知ったりする際には古典の原文を教材とし、古典の文章の内容を概括したり古典の文章に関する様々な事柄に触れたりする際には分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材に加えるなど、指導する内容や生徒の実態に応じて教材を工夫することが必要である。	

【数学・中学校３年生】

数 学	状況	正答率：全国平均より高い 分 布：上位層が多く、下位層が少ない
	内容	○数と整式の乗法の計算をすることができる。 ○問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。 △複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる。 △ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる。
	今後の指導のポイント	
	・日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。 ・図形の性質を考察する場面では、予想した事柄について成り立つ理由を、筋道を立てて考えたり、問題解決の過程を振り返って本質的な条件を見いだしたりすることが大切である。	

【英語・中学校3年生】

英 語	状況	正答率：全国平均より高い 分 布：上位層が多く、下位層が少ない
	内容	○情報を正確に聞き取ることができる。 △社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができる。 △日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができる。
	今後の指導のポイント	
	・「考えたことや感じたこと、その理由などを書く」とは、「聞いたり読んだりしたこと」の要点を捉え、自分が考えたことや感じたことなどについてその理由を交えて書くことである。その際、論点を明らかにし、順序付けを行うことにより、読み手にとって分かりやすい文章を書くことが重要である。そのためには、「聞いたり読んだりしたこと」に関する賛否など自分の意見を述べたり、自分の意見や主張とその理由や根拠の関係を明確にしたり、内容を整理して述べたりすることなどに努めさせることが必要である。 ・「まとまりのある文章を書く」とは、文と文の順序や相互の関連に注意を払い、全体として一貫性のある文章を書くことである。そのためには、「導入―本論―結論」や「主張―根拠や具体―主題の言い換えや要約」など、文章構成の特徴を意識しながら、全体として一貫性のある文章を書くことが重要である。また、出来事や事実を描写したり、考えや感想を述べたりする場合において、よりよく読み手に伝わるよう意識しながら、自分の言いたい事に最もふさわしい表現となるように工夫して書き表すことも必要である。	

【英語（話すこと）・中学校3年生】

英 語	状況	正答率：全国平均と同程度 分 布：上位層は少なく、下位層がとて多い
	内容	△疑問文の特徴を理解するとともに、その知識をやり取りの場面において活用できる技能を身につけている。 △社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことができる。
	今後の指導のポイント	
	・やり取りの場面において、「即興で伝え合うこと」「考えとその理由を述べ合うこと」が大切である。「即興で伝え合う」とは、不適切な間を置かずに関わりと事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。即興で伝え合うためには、音声や語彙、表現、文法や言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、話すことによる実際のコミュニケーション、特にやり取りの場面において活用できる技能を身につけておくことが重要である。また、考えとその理由を述べ合うためには、聞いたり読んだりしたことを基にやり取りをしていくことが重要である。 ・「社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す」とは、社会的な話題に関して聞いて分かった情報を活用し、聞き手に話して伝えることである。その際、既習の表現などを駆使しながら、自分自身の考えや気持ちを理由などとともに話して伝えることが重要である。	

(2) 学習・生活習慣等の状況

状況調査を見るにあたって、学習・生活習慣等を「生活習慣」「学校・家庭での生活の様子」「自尊意識」「規範意識」「学習の様子」の観点から分析する。

全体の傾向（様子）のよい点【○】と改善が必要な点【△】及び学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連について紹介します。

全体の傾向（様子）【中学校 3 年生】

【生活習慣】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、同じくらいの時刻に起きている。

【学校・家庭での生活の様子】

- 先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。
- 友達関係に満足している。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることが多い。
- △家で、あまり自分で計画を立てて勉強していない。
- △あまり読書をしない。
- △あまり新聞を読まない。
- △今住んでいる地域の行事にあまり参加していない。
- △これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会があまりなかった。

【自尊意識】

- 人の役に立つ人間になりたいと思う。

【規範意識】

- 人が困っているときは、進んで助けている。
- いじめは、どんな理由があってもいけないと思う。

【学習の様子】

- 週 3 回以上、授業で、P C ・タブレットなどの I C T 機器を使っている。
- 学習の中で P C ・タブレットなどの I C T 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 国語や算数や英語の勉強は大切だと思う。
- 国語や英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。

学習・生活習慣等と教科の調査結果との関連

- ・朝食を毎日食っている生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・家で自分で計画を立てて勉強している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・読書が好きな生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業でPC・タブレットなどのICT機器をよく使用した」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていた」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している生徒ほど、教科の正答率が高くなっている。

今日、私たちは急速に変化する現代社会に直面しています。テクノロジーの進化、国際化、環境の課題など、社会は過去に比べて複雑で多様になっています。このような状況下でも、新たな課題と機会に対応できる子どもたちを育てることが重要です。そのために、生涯に渡って自ら学び続けられる子の育成をめざしています。

PCやクラウドを積極的に活用して学習に取り組むことで、これからの社会を切り拓く力をつけていくことが大切です。そこで学校では、情報を収集・整理し、自分の考えを表現する力を養うために一人一台端末を活用した授業に取り組んでいます。授業や総合的な学習の時間においてディスカッション等を重ねることで、自己表現力を養っていきます。

今回の調査では、小・中学校ともに「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている」と回答している児童・生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。また「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいる」と回答している児童・生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。今後も総合的な学習の時間において、各教科で学んだことを生かすことができるよう教科横断的な学びや、探究的な学習をいっそう取り組んでいきます。

また、家で自分で計画を立てて勉強している児童・生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。自分で学習計画を立てることは、自己調整能力を向上させる手助けになります。自分で時間を管理するとともに、自分のためにすべきこと・考えるべきことについて優先順位を決めることができるよう、ご家庭でもお声がけをお願いします。

さらに、読書が好きな児童・生徒ほど、教科の正答率が高くなっています。本を読むことで異なる視点や意見に触れ、議論や対話を深めるための材料となります。また、読書をする事で語彙力や集中力が高まります。子どもたちが読書を楽しむ習慣を育んでいけるよう、引き続き取り組んでいきます。ご家庭でもご協力よろしくお願いします。